



かさはらのりゆき
笠原則孝 議員

ごみ ごみ受入れの 近隣市等との 違いは

「私の視点」

ごみの処理手数料や受付時間等は自治体によって差がある。暮らしやすい町にするために、町民誰もが利用するクリーンセンターの受入れ体制を見直すべきだ。

答弁（町長） 土日の受入れは利便性が高いと認識

問 クリーンセンターでのごみの受入れは、事前に予約が必要であり、土日の受入れも日にちが限定されている。また、予約方法や受付時間、ごみ処理手数料についても近隣他市町村との差があるようだがどうか。

答（町長） 予約方法について、前橋市・高崎市・伊勢崎市・藤岡市の4市では事前予約の必要はないが、当町では事前予約をお願いしている。その理由は、同じ時間帯に搬入車両が集中すると大型車両が頻繁に往来する西側道路が渋滞し、交通事故の恐れがあるためである。

土日の受入れについては、第1・3土曜日と第2日曜日の月3回、さらに3月と12月は1回追加して実施しているため、周辺市と比べて利便性が高いと認識している。持込み重量と処理手数料については、1日当たり100キログラムま

で無料、100キログラムを超えた場合は、超えた重量に対して10キログラムにつき132円となっているが、ごみ処理には100キログラム当たり5,000円程度の費用がかかり、現状の手数料は安価に設定されている。

町の外郭団体とその取組

問 町には外郭団体がいくつあり、それぞれどのような取組をしているのか。

答（町長） 一般的な外郭団体としては、町が出資している農業公社や土地開発公社、文化振興財団が挙げられるが、町から補助金を受けて運営している魅力発信機構や住民活動サポートセンター「ぱる」等についても外郭団体としての性質を有していると考えている。

取組内容については、それぞれ団体の目的によって異なるが、特定分野において高い専門性を有し、行政を補完する業務を行っており、町の政策を実現する上で、重要なパートナーであると考えている。

問 魅力発信機構と地域おこし協力隊の役割の違いは。

答（町長） 魅力発信機構は、町のレジャーやグルメ等の情報発信体制の強化を図り、交流・関係人口を増やすべく、情報発信基盤を担っている。

地域おこし協力隊は、町が抱える課題に対して地域協力活動を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組を行っている。



県外から移住してきた地域おこし協力隊員（右2人）地域の活性化を図るため、町職員と熱心に打合せ

次のページは



月田議員



小林議員

一般質問

令和5年6月定例会

町の課題や今後について、議員が提案も含めて町に考えを聞く「一般質問」。本会議において、白熱した論戦が繰り広げられます。6月定例会で登壇した9人の議員はどんな視点で質問し、そして町はどう答えたのか。町の「今とこれから」が見えてきます。

9人の 論戦

鋭く迫る！ 一般質問



皆さんは、どのキーワードに関心がありますか？

くらし

ごみ受入れの近隣市等との違い(笠原 P.9)
5類に移行となった現在の感染対策(小林 P.11)

多文化共生社会の実現に向けた取組(小林 P.11)

水道料金改定の値上幅(羽鳥 P.14)

文化・教育・福祉

「地域の歴史」を後世に残すための取組(月田 P.10)

特別支援教育の現状(松本 P.15)

児童の安全確保の徹底を(堀越 P.16)

8050問題(高橋 P.17)

まちづくり・防災

コンビニとの災害時の連携協定(備前島 P.13)

利根川新橋建設の今後(羽鳥 P.14)

町民に信頼される町政、環境づくりを(堀越 P.16)

常設型雨水排水ポンプの設置を(高橋 P.17)

その他

町の外郭団体とその取組(笠原 P.9)
どう考える「チャットGPT」の利用(月田 P.10)

LGBTQ+理解促進に向けた取組(小林 P.11)

「チャットGPT」の活用を(新井 P.12)

高齢者スポーツ団体へ補助金を(備前島 P.13)

ホームページ改善・イベント情報の発信(松本 P.15)

※（ ）内は質問者と掲載ページ

Tama Voice

気軽に傍聴できました。この質問はどの課が担当で町の課題はどんなことか、どんな人たちが携わっているかなどがよく分かり、新鮮に感じました。関根さん(角洲)



全文記録(会議録)は8月末に議会ホームページで公開予定です。



玉村町議会会議録